

2024・6

柏の景気情報

令和6（2024）年6月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年6月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

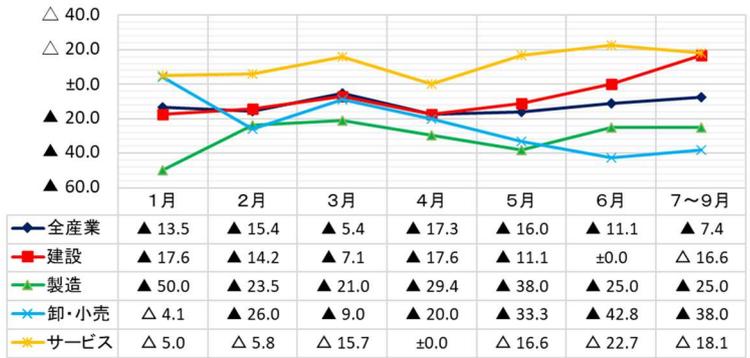
回答期間：令和6年6月20日～令和6年7月3日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数81

各業界コスト負担増による苦境は変わらず、先行きへの不安の声多数。定額減税の恩恵も未だ実感出来ず。

6月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.1（前月水準▲16.0）となりマイナス幅が4.9ポイント縮小した。

各業界、売上上がるもコスト負担増の継続により厳しい状況は変わらず。円安進行による値上げに、価格転嫁の交渉やタイミングが難航。悪化回避のための現状の維持に努めざるをえない状況が続く。卸小売業・サービス業ともに、6月から開始した定額減税の恩恵未だ感じられず。先行きの不透明さによる不安の声が多数寄せられている。

柏の景気情報・産業別業況DI



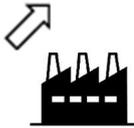
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「従業員の不足もあるが 屋根もない状態でのそと仕事はとても厳しいものがあり、仕事ははかどらない。また熱中症と思われる状態を訴える従業員が増えている。従業員の募集をしても 3K の仕事には応募は無いといってもよいほど厳しい。」(とび) 「曇工事・曇小物も順調。テレビで曇特集がよく組まれている影響か？」(曇工事請負・曇製造販売) 「来月以降の見通しは、国際情勢の不安定さ、円安の進行、政局の不明確さから不透明感が強く感じる。」(地質調査)



製造業

「業況をみると5月・6月はともに良くない。景気はまずまずのようだが、受注が減少傾向のため、維持に努めざるを得ない。また、再び円安を反映して原材料コストが上昇に向かいつつあるが、この先懸念される。」(印刷) 「価格改定交渉が思うようにはかどらない。材料は値上がりが続く。先を見据えて人材育成は必要だと理解しているがはかどらない。5S 活動のように外部からの力を働かせないと社内では無理なのか？」(金属製品)



卸・小売

「値上げの発表の度、買だめと買い控えが繰り返される。短期間に原材料が値上げになるので、価格転嫁のタイミングが難しい。」(その他の各種商品小売) 「梅雨時期の遅れによる天候要因も後押しし、雑貨・サービス関連に加え、アパレル関連も上向き傾向。値上げによるコスト増に加え慢性的な人手不足もあり、食物販関連での伸び鈍化続く。定額減税効果はまだ実感出来ない状況。」(百貨店)



サービス業

「猛暑の影響による業績は大きく悪化の見込み。定額減税においては事務作業が増えたため、残業が増え人件費が増加した。各種工事を発注しているが工事単価が大幅に上昇している。」(ゴルフ練習場) 「夏期講習の募集が始まったが、今のところ、定額減税による影響は感じられない。」(学習塾) 「円安のこともあり海外旅行客は伸び悩んでいる。マスコミなどでの現地の物価が高い報道があると影響は大きい。」(旅行)

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲11.1に対し、「CCI-LOBO」が▲16.2で、柏のほうがマイナス幅が5.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・卸小売業・製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.1	 ± 0.0	 ▲ 25.0	 ▲ 42.8	 22.7
CCI-LOBO	 ▲ 16.2	 ▲ 18.7	 ▲ 17.6	 ▲ 22.2	 ▲ 6.0
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.1	 5.5	 ▲ 20.0	 ▲ 38.0	 27.2
CCI-LOBO	 ▲ 4.4	 ▲ 13.5	 ▲ 6.3	 ▲ 11.8	 8.2
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.0	 ▲ 5.5	 ▲ 30.0	 ▲ 42.8	 13.6
CCI-LOBO	 ▲ 16.8	 ▲ 17.1	 ▲ 18.0	 ▲ 21.9	 ▲ 9.3
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 64.1	 ▲ 50.0	 ▲ 80.0	 ▲ 85.7	 ▲ 40.9
CCI-LOBO	 ▲ 67.7	 ▲ 71.6	 ▲ 64.8	 ▲ 72.0	 ▲ 66.5
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 14.8	 33.3	 5.0	 ▲ 4.7	 27.2
CCI-LOBO	 21.4	 35.5	 9.8	 18.4	 28.1
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.1	 ± 0.0	 ▲ 10.0	 ▲ 19.0	 4.5
CCI-LOBO	 ▲ 12.4	 ▲ 6.1	 ▲ 13.9	 ▲ 18.9	 ▲ 11.2

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間: 2024年6月13日~19日

調査対象: 全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、物価高に伴う消費低迷で、全業種で悪化

先行きは、一層のコスト負担増継続で厳しい見方

6月の全産業合計の業況DIは、▲16.2と前月比からマイナス4.8ポイント。

資源・原材料価格の高止まりする中、歴史的な円安基調や人材確保に向けた賃上げ、輸送費の上昇等の複合的な要因による企業のコスト負担増は業種を問わず継続している。

とりわけ、建設業や卸売業では、働き方改革関連法による輸送費・労務費の少々や需要の取りこぼしが見られたほか、製造業では企業の設備投資が力強さを欠き、需要が伸び悩んでいる。また、小売業やサービス業では、インバウンド需要は底堅いものの、物価高による消費者の購買意欲の低下が下押しした。継続

する物価高による消費低迷により、全業種で業況は悪化となった。(全業種で業況DIが1.0ポイント以上悪化したのは、2022年9月以来)

先行き見通しDIは、▲16.0と今月比からプラス2.0ポイント

高い賃上げ率や定額減税等による可処分所得の増加が期待される一方、資源価格の高止まりや円安の伸長等による物価高が依然として上回っており、消費低迷が続いている。

また、人手不足による労務費や輸送費の上昇、電気代等の光熱費の高騰で、企業のコスト負担増は継続している。価格転嫁も進捗は見られるが、度重なる物価上昇に追い付いておらず、先行きは厳しい見方が続いている。

【建設業】

「時間外労働の上限規制により、工事の受注を見送る等の影響が出てきている。一方、以前よりも従業員の残業

時間の管理や人員配置を考えるきっかけとなっている。また、発注者にも適切な工期設定を依頼できるようになった」(土木工事業)

「原材料の高騰が続く中、人材確保に向けて賃上げにも努めているが、業界全体が人手不足であり、恒常的に人手が足りない」(防水工事業)

【製造業】

「円安基調により再び原材料価格が上昇しており、再度の価格転嫁を進めざるを得ない状況である。しかし、長引く物価高・実質賃金のマイナスが継続しているため、最終消費者の購買意欲が低下しており、値上げによる販売数量の減少を危惧して足踏みしている」(パン・菓子製造業)

「ここ数年で10%以上の賃上げを実施したが、円安で外国人労働者の賃金が自国通貨換算時に目減りしており、人材確保の足かせになっている」(鉄鋼業)

【卸売業】

「物価高による消費者の購

買意欲の低下が大きく、少しでも安価な商品を購入するようになってきている。仕入価格や運送費の上昇分を販売価格に転嫁しているが、何度も値上げは行えないため、収益を圧迫している」(農畜産水産物卸売業)

「物流2024年問題で運送事業者の輸送費が上昇。物流の効率化に向けて方策を模索しているところである」(建築材料卸売業)

【小売業】

「インバウンド需要の高まりで、外国人観光客による免税品の売上は好調が続いている。一方、地域顧客の購買意欲の低迷や、電気代の高騰に伴うコスト増により、総じてみると売上・収益ともに伸び悩み状態にある」(百貨店)

「運送事業者の働き方改革に伴い、輸送費の上昇によるコスト負担増に加え、納品回数削減で欠品も起きている」(服飾品小売業)

【サービス業】

「円安による備品等の価格の上昇に加え、電気代も高騰し

ており、経営は苦しさを増している。また、物価高で顧客の来店頻度・客単価の双方が下がっており、これ以上の顧客離れを懸念して料金改定も行えない」(理容業)

「インバウンド観光客の客単価は上昇しているが、地域顧客はまだ賃金上昇が物価高に追い付いておらず外食離れが進行している」(飲食店)

全国・産業別業況DIの推移

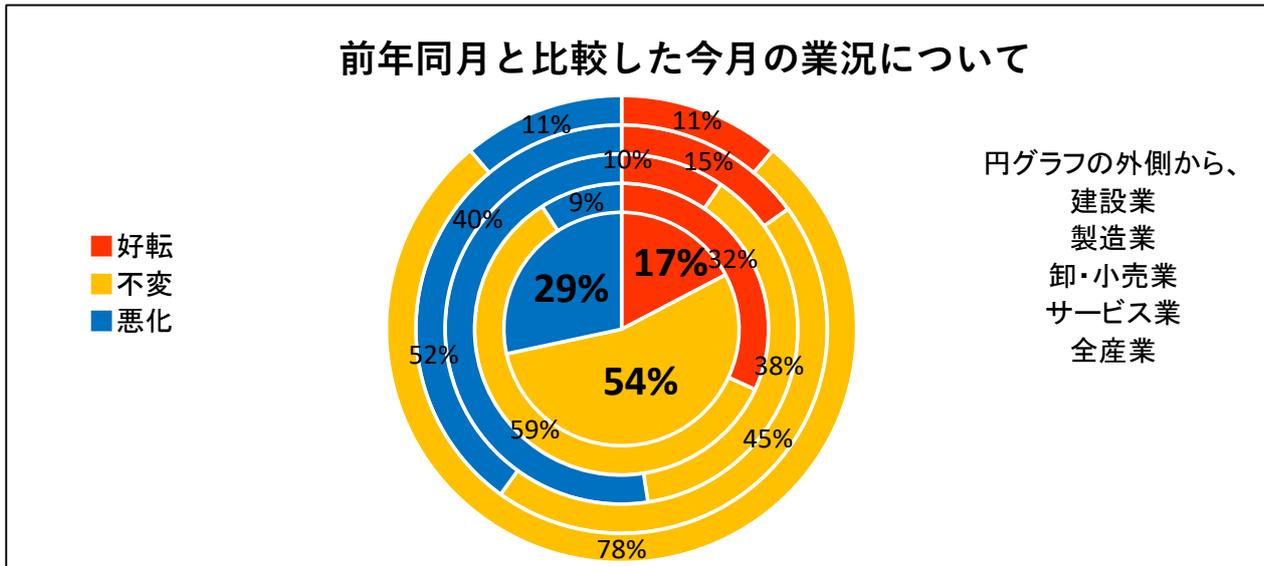
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲11.4	▲12.3	▲13.4	▲10.4	▲16.2	▲5.2
2月	▲12.9	▲13.0	▲17.0	▲19.2	▲14.4	▲4.4
3月	▲12.9	▲15.6	▲14.8	▲17.4	▲17.9	▲3.8
4月	▲14.0	▲16.5	▲21.7	▲16.6	▲16.5	▲2.4
5月	▲11.4	▲16.5	▲13.6	▲14.8	▲16.6	▲0.8
6月	▲16.2	▲18.7	▲17.6	▲23.3	▲22.2	▲21.2
見通し	▲16.0	▲16.2	▲17.8	▲28.4	▲21.2	▲4.8

令和6年（2024年）6月の動向

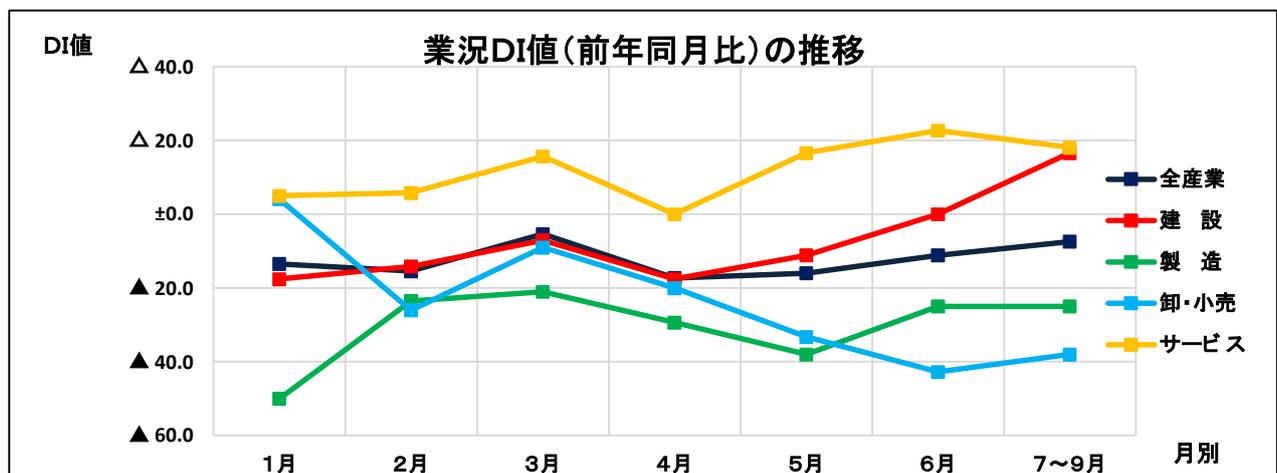
【業況について】

- 6月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲11.1（前月水準▲16.0）となり、マイナス幅が4.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（7月から9月）の先行き見通しについては、全産業では、▲7.4（前月水準▲11.1）となり、マイナス幅が6.3ポイント拡大した。



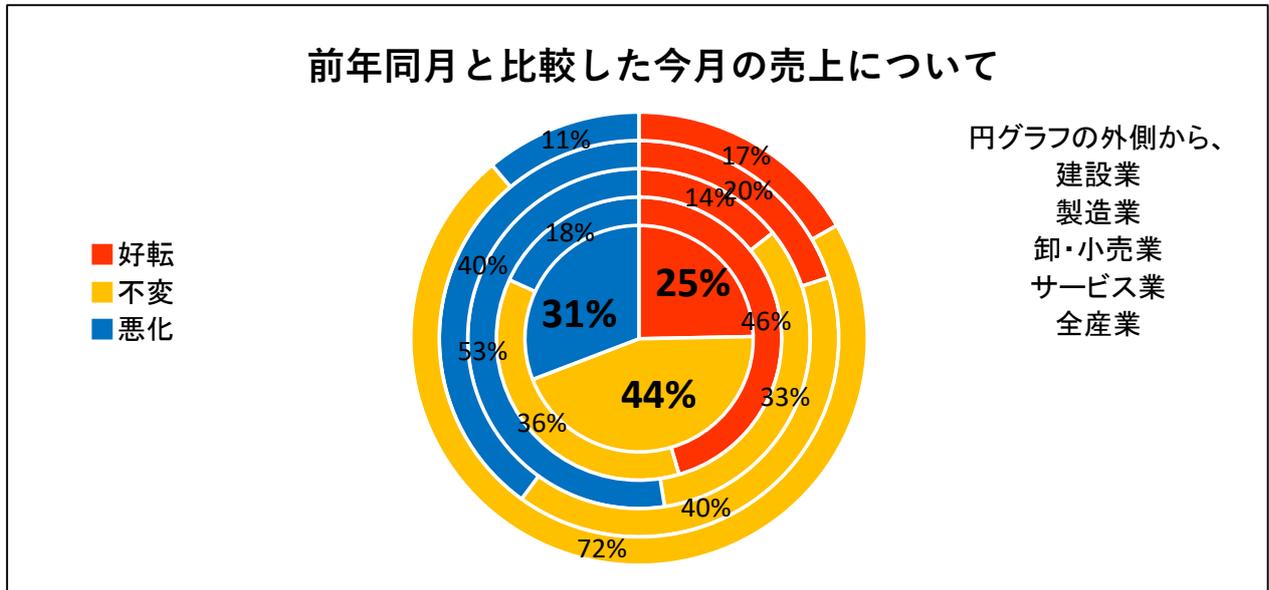
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月（6~8月）	
全産業	▲13.5	▲15.4	▲5.4	▲17.3	▲16.0	▲11.1	▲7.4（-1.1）	
建設	▲17.6	▲14.2	▲7.1	▲17.6	▲11.1	±0.0	△16.6（16.6）	
製造	▲50.0	▲23.5	▲21.0	▲29.4	▲38.0	▲25.0	▲25.0（-19）	
卸・小売	△4.1	▲26.0	▲9.0	▲20.0	▲33.3	▲42.8	▲38.0（-25）	
サービス	△5.0	△5.8	△15.7	±0.0	△16.6	△22.7	△18.1（25）	



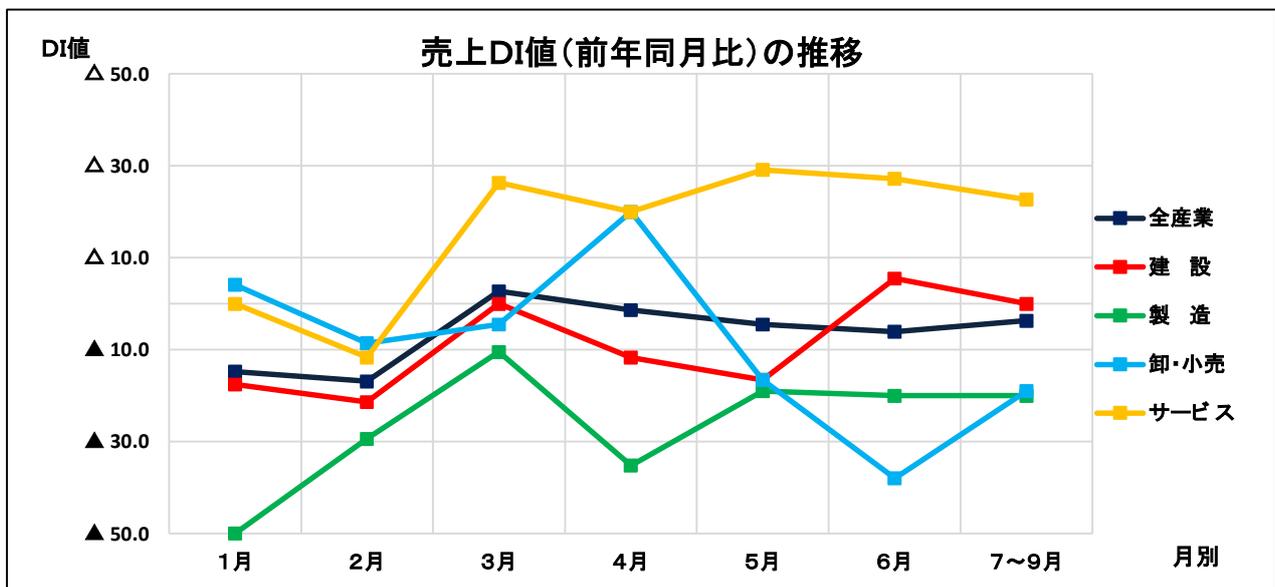
【売上について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.1(前月水準▲4.5)となり、マイナス幅が1.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.7(前月水準△10.3)となり、マイナス幅が14.0ポイント拡大した。



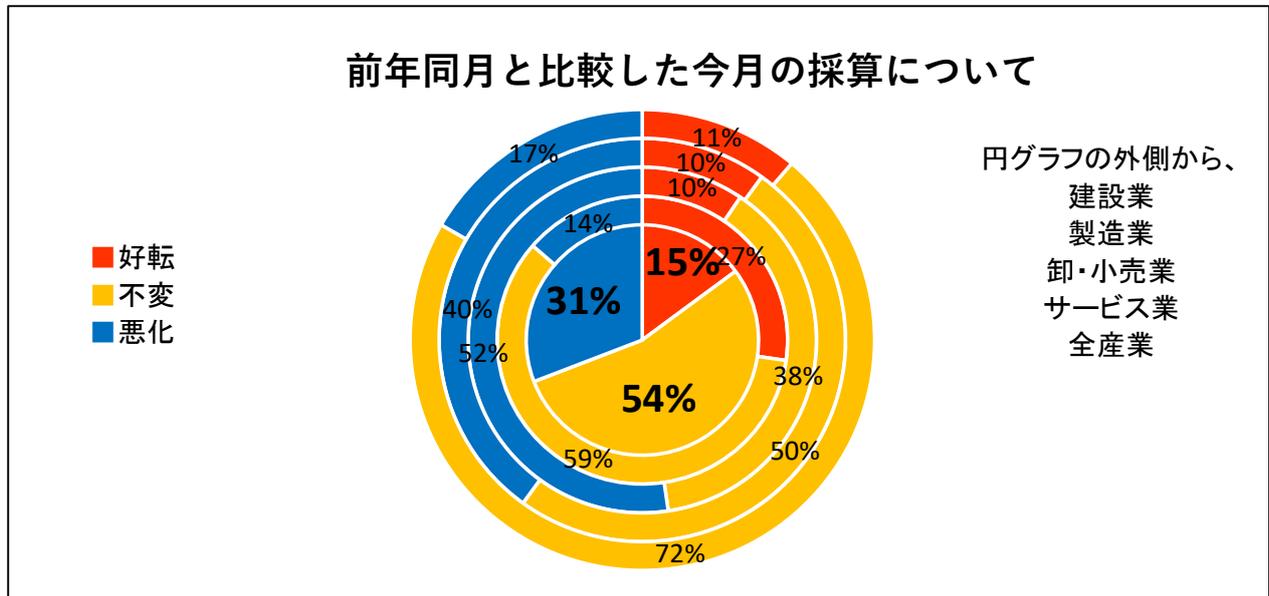
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月(6~8月)
全産業	▲14.8	▲16.9	△2.7	▲1.4	▲4.5	▲6.1	▲3.7(△10.3)
建設	▲17.6	▲21.4	±0.0	▲11.7	▲16.6	△5.5	±0.0(△11.1)
製造	▲50.0	▲29.4	▲10.5	▲35.2	▲19.0	▲20.0	▲20.0(▲19.0)
卸・小売	△4.1	▲8.6	▲4.5	△20.0	▲16.6	▲38.0	▲19.0(±0.0)
サービス	±0.0	▲11.7	△26.3	△20.0	△29.1	△27.2	△22.7(△45.8)



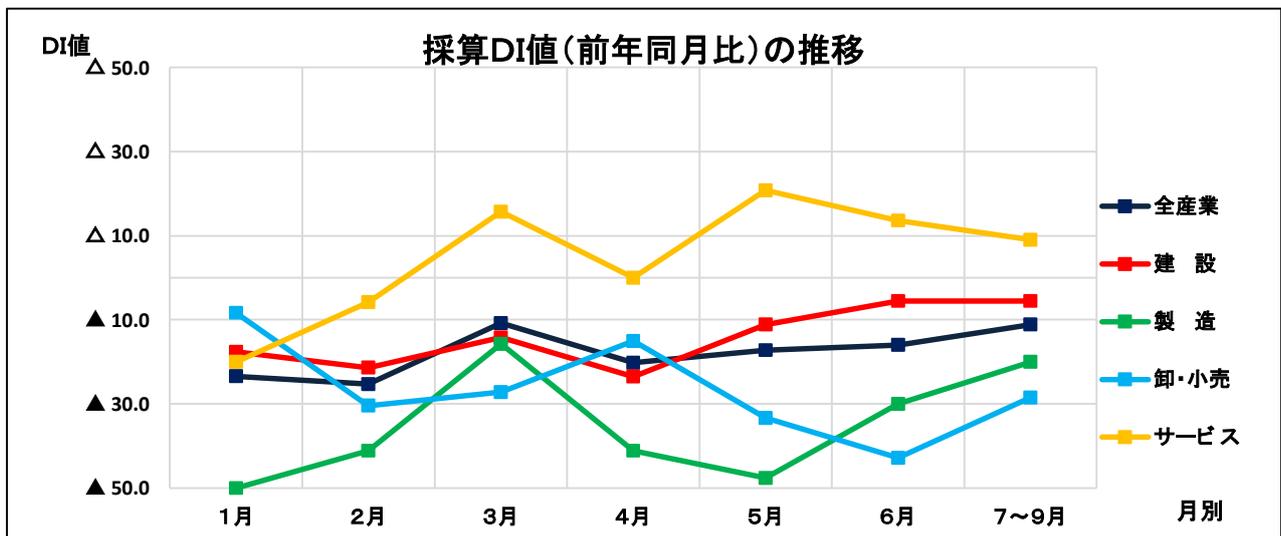
【採算について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.0(前月水準▲17.2)となり、マイナス幅が1.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.1(前月水準0.0)であり、マイナス幅が11.1ポイント拡大する見通しである。



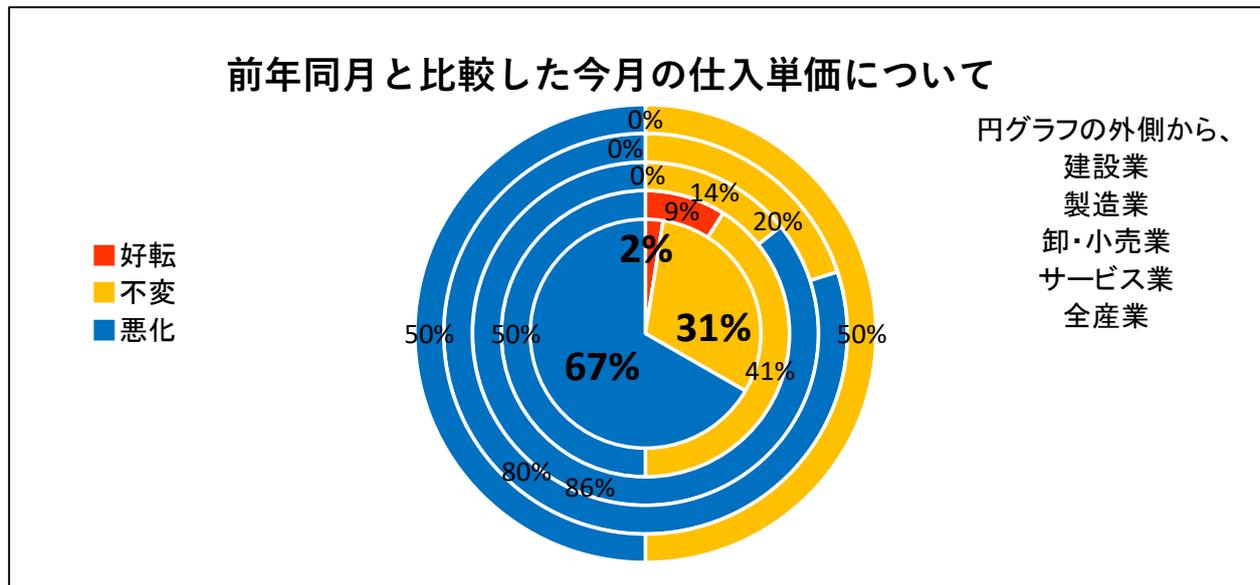
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月(6~8月)
全産業	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲20.2	▲17.2	▲16.0	▲11.1(±0.0)
建設	▲17.6	▲21.4	▲14.2	▲23.5	▲11.1	▲5.5	▲5.5(△5.5)
製造	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲41.1	▲47.6	▲30.0	▲20.0(▲23.8)
卸・小売	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲15.0	▲33.3	▲42.8	▲28.5(▲16.6)
サービス	▲20.0	▲5.8	△15.7	±0.0	△20.8	△13.6	△9.0(△33.3)



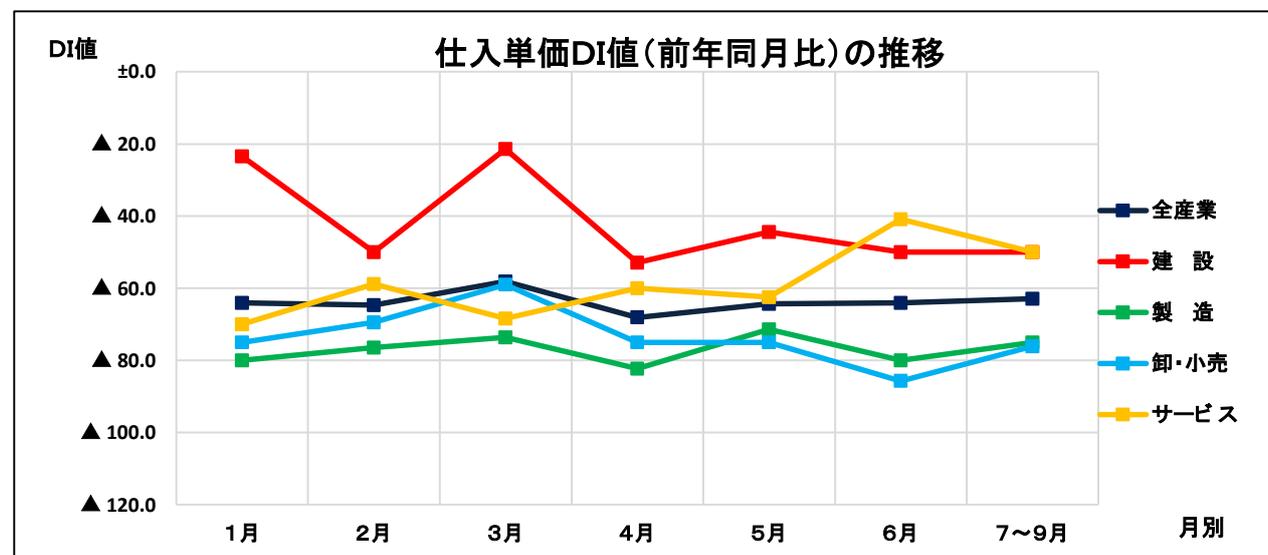
【仕入単価について】

- 6月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.1(前月水準▲64.3)となり、マイナス幅が0.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲62.9(前月水準▲56.3)となり、マイナス幅が6.6ポイント拡大する見通しである。



仕入単価D I値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

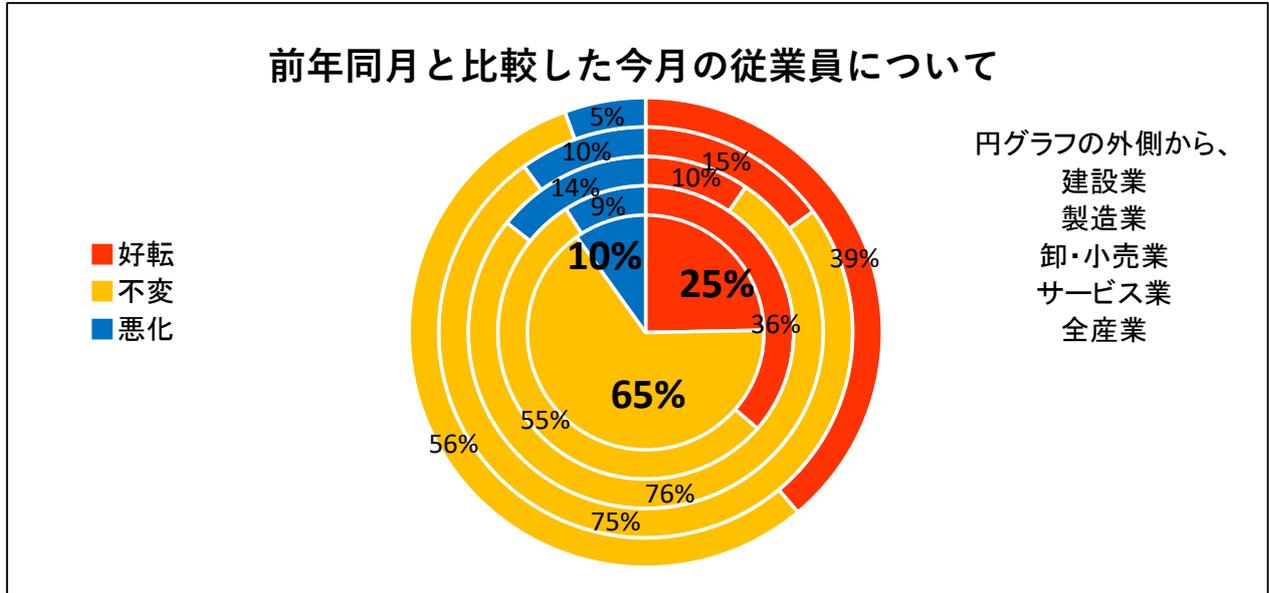
	令和6年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月 (6~8月)
全産業	▲64.1	▲64.7	▲58.1	▲68.1	▲64.3	▲64.1	▲62.9 (▲56.3)
建設	▲23.5	▲50.0	▲21.4	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲50.0 (▲38.8)
製造	▲80.0	▲76.4	▲73.6	▲82.3	▲71.4	▲80.0	▲75.0 (▲76.1)
卸・小売	▲75.0	▲69.5	▲59.0	▲75.0	▲75.0	▲85.7	▲76.1 (▲62.5)
サービス	▲70.0	▲58.8	▲68.4	▲60.0	▲62.5	▲40.9	▲50.0 (▲45.8)



【従業員について】

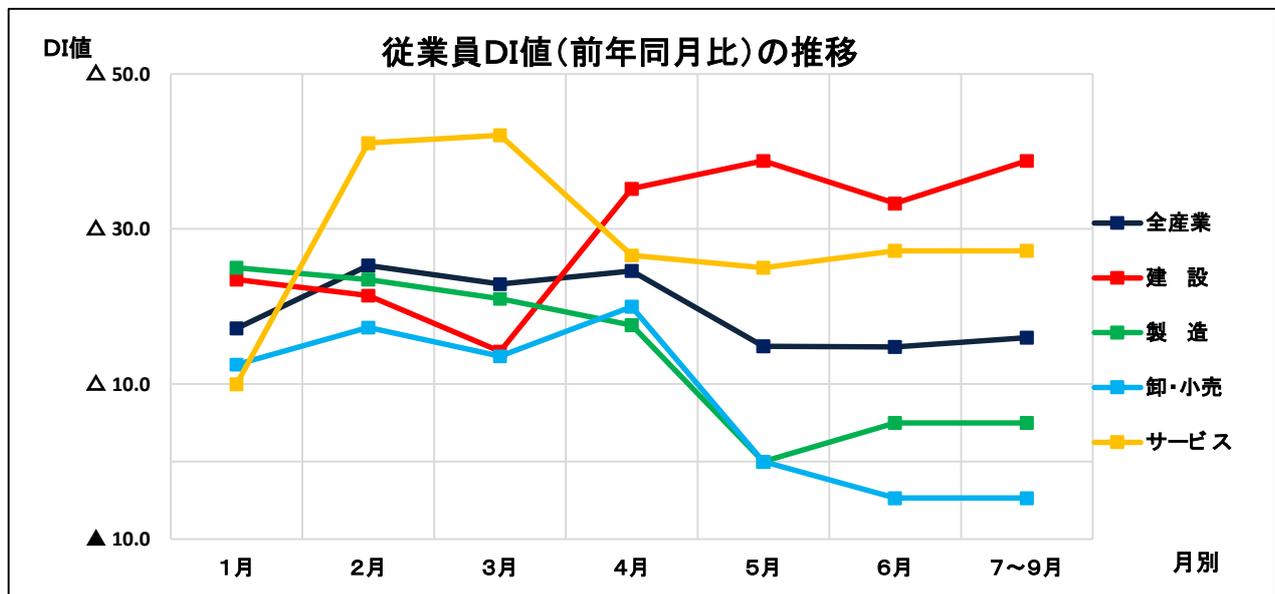
○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△14.8(前月水準△14.9)となり、プラス幅が0.1ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.0(前月水準△22.9)となり、プラス幅が6.9ポイント縮小する見通しである。



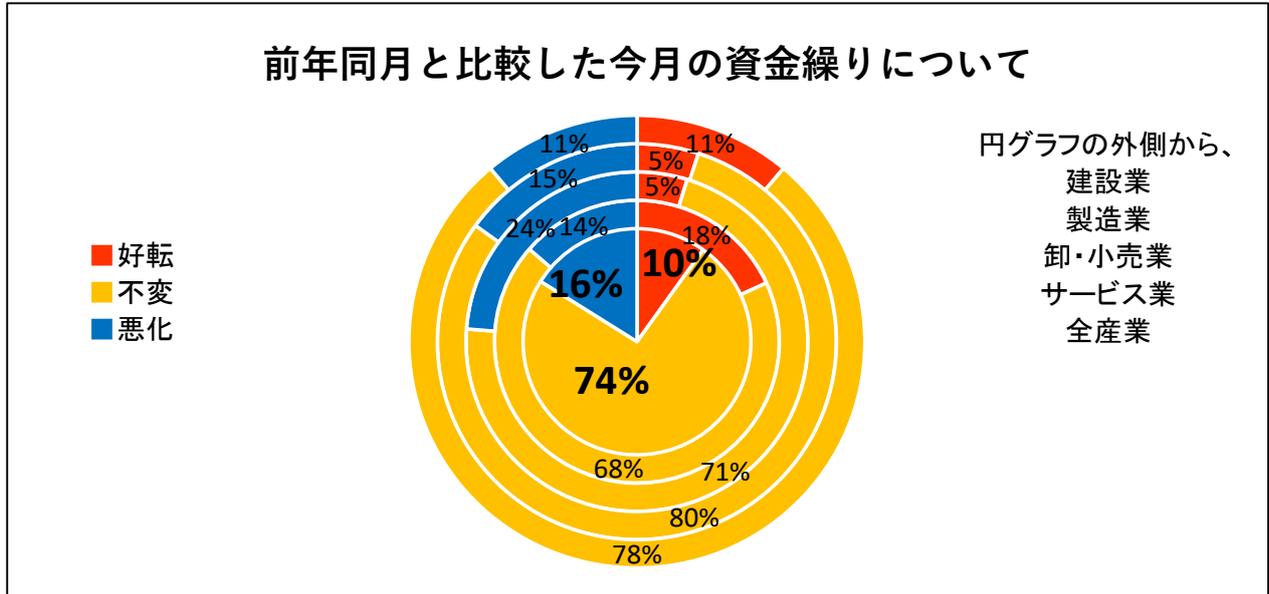
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月(6~8月)
全産業	△17.2	△25.3	△22.9	△24.6	△14.9	△14.8	△16.0(△22.9)
建設	△23.5	△21.4	△14.2	△35.2	△38.8	△33.3	△38.8(△38.8)
製造	△25.0	△23.5	△21.0	△17.6	±0.0	△5.0	△5.0(△4.7)
卸・小売	△12.5	△17.3	△13.6	△20.0	±0.0	▲4.7	▲4.7(△16.6)
サービス	△10.0	△41.1	△42.1	△26.6	△25.0	△27.2	△27.2(△33.3)



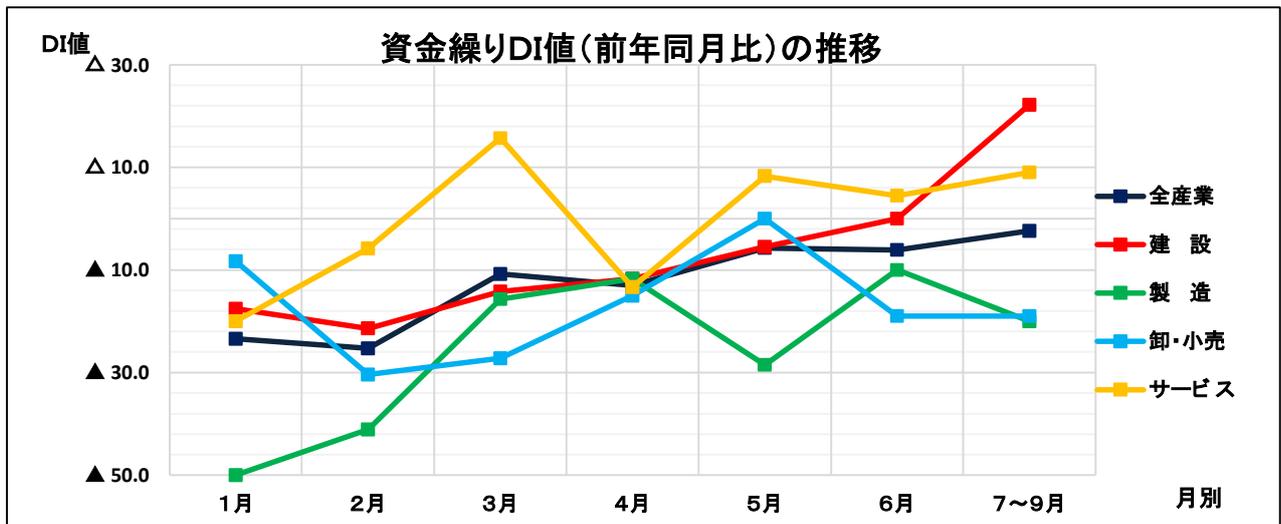
【資金繰りについて】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.1(前月水準▲5.7)となり、マイナス幅が0.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.4(前月水準▲1.1)となり、マイナス幅が1.3ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7~9月(6~8月)
全産業	▲23.4	▲25.3	▲10.8	▲13.0	▲5.7	▲6.1	▲2.4(▲1.1)
建設	▲17.6	▲21.4	▲14.2	▲11.7	▲5.5	±0.0	△22.2(△22.2)
製造	▲50.0	▲41.1	▲15.7	▲11.7	▲28.5	▲10.0	▲20.0(▲23.8)
卸・小売	▲8.3	▲30.4	▲27.2	▲15.0	±0.0	▲19.0	▲19.0(▲4.1)
サービス	▲20.0	▲5.8	△15.7	▲13.3	△8.3	△4.5	△9.0(△4.1)

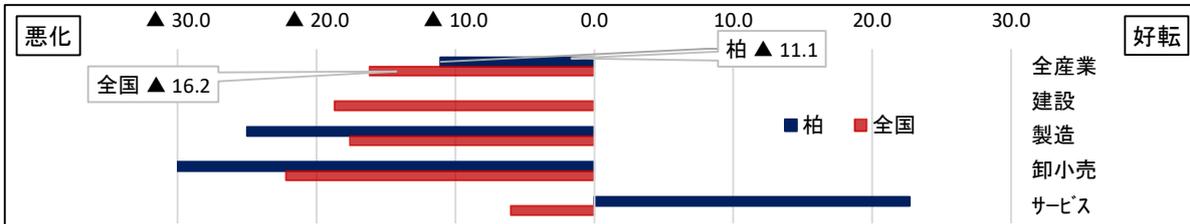


全国（CCI-LOBO）との比較

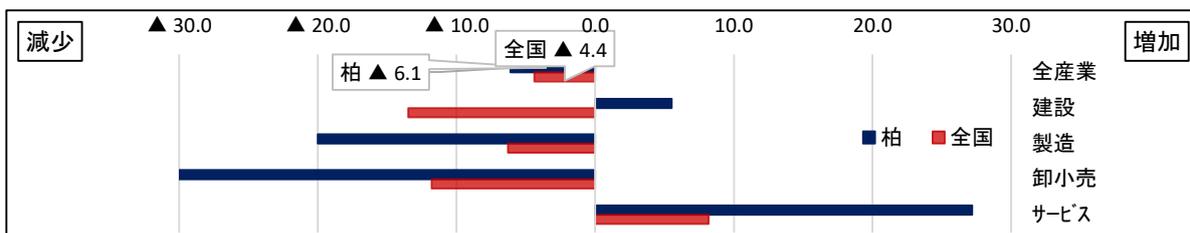
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

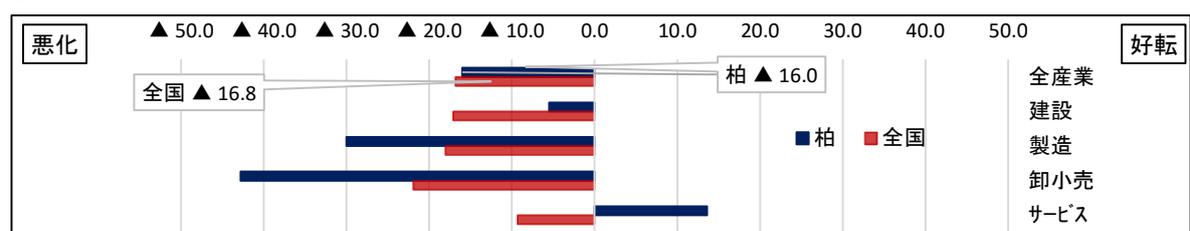
【業況D I】



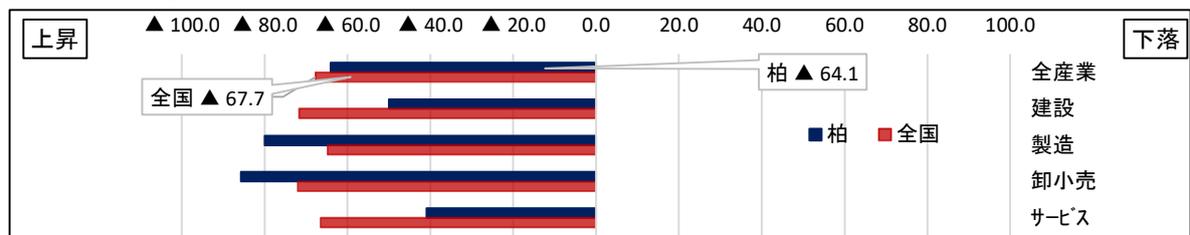
【売上D I】



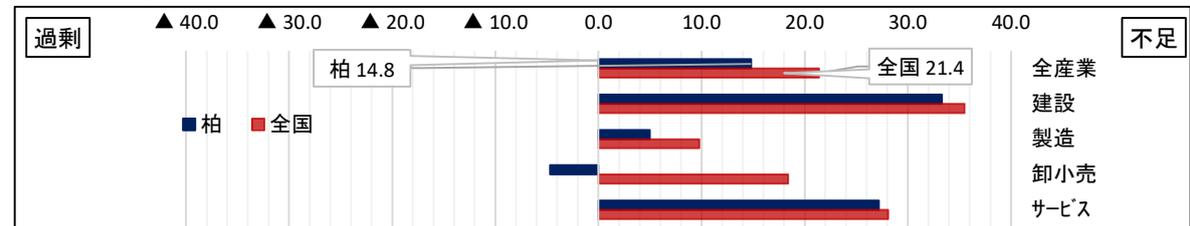
【採算D I】



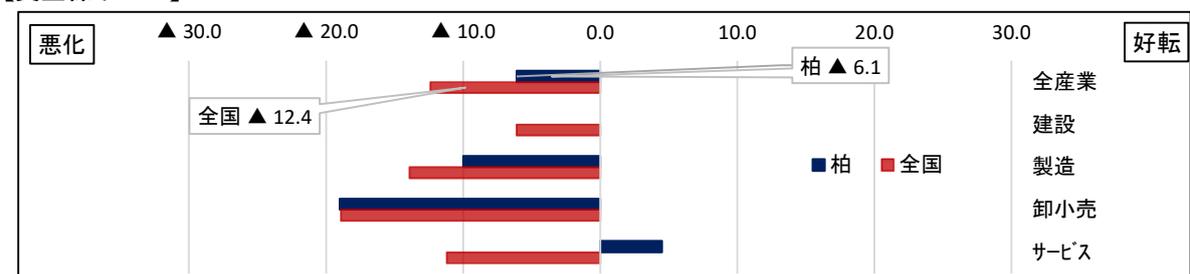
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	豊工事・豊小物も順調。テレビで豊特集がよく組まれている影響か？	豊工事請負・豊製造販売業
	来月以降の見通しは、国際情勢の不安定さ、円安の進行、政局の不明確さから不透明感が強く感じる。	地質調査
	従業員の不足もあるが 屋根もない状態でのそと仕事はとても厳しいものがあり、仕事ははかどらない。 また熱中症と思われる状態を訴える従業員が増えている。 従業員の募集をしても 3Kの仕事には応募は無いといってもよいほど厳しい	とび
製造業	医療品容器の受注、新企画開発は順調に推移してる。化粧品容器の受注は回復傾向が見られないが底入れはしたようだ。	プラスチック加工
	技術職の人材が不足している。	一般産業用機械・装置製造業
	前年度対比では増収増益となっているが、労務費や原光熱水費ともコストアップとなり状況としては厳しい状況 昨年以上に熱中症対策に力を入れている(短時間作業後クール時間対応・熱中症対策品)	その他の鉄鋼業
	価格改定交渉が思うようにはかどらない。材料は値上がりが続く。先を見据えて人材育成は必要だと理解しているがはかどらない。5S活動のように外部からの力を働かせないと社内では無理なのか？	金属製品
	業況をみると5月・6月はともに良くない。景気はまずまずのようだが、受注が減少傾向のため、維持に努めざるを得ない。また、再び円安を反映して原材料コストが上昇に向かいつつあるが、この先懸念される。	印刷業
卸・小売業	食品は目玉品の動きは非常に良いが、全体的に物価高騰の影響で買い渋りが見受けられる。夏のギフトがスタートしたが、初動は鈍い。	大型小売店
	材料入荷が未定で欠品商品がありお客様にご迷惑をおかけしている。	洋菓子店
	値上げの発表の度、買いためと買い控えが繰り返される。 短期間に原材料が値上げになるので、価格転嫁のタイミングが難しい。	その他の各種商品小売業

【業種別】業界内トピックス

未	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨時期の遅れによる天候要因も後押しし、雑貨・サービス関連に加え、アパレル関連も上向き傾向 ・値上げによるコスト増に加え慢性的な人手不足もあり、食物販関連での伸び鈍化続く ・定額減税効果はまだ実感出来ない状況 	百貨店
サービス業	円安のこともあり海外旅行客は伸び悩んでいる。マスコミなどでの現地の物価が高い報道があると影響は大きい	旅行
	固定費の上昇を抑える工夫と業務の効率化を模索中	不動産賃貸・管理業
	即戦力不足	ソフトウェア業
	そごうの土地建物を買った三井不動産が柏市に売りその後もアドバイザーで残るのが滑稽です。	不動産賃貸業
	猛暑の影響による業績は大きく悪化の見込み。定額減税においては事務作業が増えたため、残業が増え人件費が増加した。各種工事を発注しているが工事単価が大幅に上昇している。	ゴルフ練習場
	夏期講習の募集が始まったが、今のところ、定額減税による影響は感じられない。	学習塾

調査要領

回答期間

令和6年6月20日 ~ 令和6年7月3日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	81	46.8%
建設	38	18	47.4%
製造	44	20	45.5%
卸・小売	46	21	45.7%
サービス	45	22	48.9%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こ う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				